

令和2年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る中間評価結果

領域番号	7003	領域略称名	クロマチン潜在能
研究領域名	遺伝子制御の基盤となるクロマチンポテンシャル		
領域代表者名 (所属等)	木村 宏 (東京工業大学・科学技術創成研究院・教授)		

(評価結果)

A (研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの進展が認められる)

(評価結果の所見)

本研究領域は、遺伝子発現など様々な制御を<sup>つかさど</sup>司るクロマチンに関する研究である。イメージングや数理モデルなど様々な研究手法を有する研究者が集うことで、非常に充実した多面的な領域構成になっていると評価できる。技術開発と観察を組み合わせることにより、相乗的に成果を生み出している。また、本研究領域では、女性研究者による国際会議も行われており、領域運営が多角的かつ意欲的に推進されている。

本研究領域は、1細胞のエピゲノム解析を含む画期的な技術を開発するなど独自のアドバンテージを有しており、精度の高い研究を進めている。クロマチン研究は世界的に競争の激しい分野だが、エピゲノム操作の実現により多面的な解析が加速し、今後もオリジナリティの高い研究を継続して新たな領域を開拓していくことが望まれる。例えば、異なる階層の成果を統合して新しい学問領域を創出することや、本研究領域の成果に立脚したクロマチンの機能制御などの方向性の検討は重要な課題であると考えられる。

総じて順調に研究が進行中で、今後、計画研究及び公募研究の各研究者の更なる融合により、クロマチン構造とそれが制御する種々の機能の解明の進展を期待したい。